

第701回番組審議会報告

2025年9月2日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長、栗栖義臣副委員長、小川明子委員、川瀬慈委員、
小島幸保委員、曾我部真裕委員、津村記久子委員、長谷川豊委員

■毎日放送出席者

虫明社長、酒井常務、中野常務、高山取締役、磯澤取締役、
奥田取締役、羽根報道情報局長、米澤編集長兼事前報道統括、
柳瀬選挙デスク、東野コンプライアンス局長、東郷広報部長、
中西番組審議会事務局長

◆審議事項

テレビ番組 「よんチャンTV × 選挙の日

関西人のホンネとギモン 投票日直前SP」

(2025年7月18日 15:40～19:00 放送分)

【番組概要】

MBSテレビで、関西にこだわったニュースや話題を生放送でお送りしている『よんチャンTV』（毎週月～金 午後3：40から放送）。今回のテーマは、参院選に関する「関西人のホンネとギモン」。7月3日（木）から選挙に関連した企画を放送し、関西で100人に聞いた選挙・政治に対する「ホンネ」と「ギモン」をもとに、テレビと視聴者が選挙について連日、一緒に考える機会を創出しています。また、投開票日直前の7月18日（金）には『よんチャンTV』を選挙特番化！これまでにはなかった“選挙の事前報道”に注力します！

【各委員の主な意見は次の通り】

- * 全体を通して「公平性を重視して一歩下がる」から「積極的に事実を報じる」という姿勢に大きく転換した内容で、視聴者に訴えかけることができたのではないかと感じた。
- * 投票日直前にこういう大きな選挙特番を作る非常に積極的な取り組みでその決断に敬意を表したい。多くの人に注目を浴びていた政党を大きく取り上げたことに意義があったと思う。
- * 夕方の時間帯で選挙を毎日取り上げていくことはすごくいい取り組みだと思った。今後もぜひ続けていただきたい。

- * ごく当たり前であるはずの選挙報道の質的公平性を担保するために、ここまで勇気を振り絞らなくてはならない社会や放送業界の状況にとっても危機感を感じた。
- * リハックの企画で「ひとりずつゆっくり話を聞いている」とか、「誰の話も否定しない」というスタジオの感想は説得力があった。「テレビ討論はいがみ合いが多かった」という指摘も両方の違いをすごくわかりやすく説明していた。
- * リハックの企画や運営についての発信者側の視点や工夫は伝わってくるが、実際にこの番組を見ている受け手側の視点や、このような情報をいかに咀嚼して自分の投票行動に反映させているかが見たかった。
- * スタジオの武田さんが指摘した「ロシアなどによるSNSを使った世論操作への警戒の必要性」はすごく重要な貴重なコメントだと思ったが、特にスタジオで反応や説明がなかった。
- * 河野さんがエコーチェンバーに言及したのに、誰もひっかからなかったことが衝撃だった。エコーチェンバーとかフィルターバブルとかアルゴリズムによって選択的に情報が表示されるということを知っている人は意外と少ない。これらについては毎日でもテレビで伝えてほしい。
- * ネットの番組はライブを言い訳にファクトチェックを怠っていることについて開き直っていることをもっと言うべきだと思った。出る人の言い分を無批判にずっと垂れ流ししていることにもなっている。
- * 各政党の応援演説を見に来ている人のスマホを見せ合う企画ができないか。自分たちが見ているSNSの世界をお互い見せ合うと、実際にフィルターバブルやアルゴリズムを気づかせてくれるきっかけになるのではないかな。
- * 街頭インタビューは本当に必要だろうかと常々感じている。それよりは農家の人、福祉現場の人、外国人をたくさん雇っている企業など対象を絞ってインタビューする方が意味があるのではないかな。
- * 番組内で「放送法があるから」という言葉が何回か繰り返されているが、視聴者が放送法を理解していることを前提とし過ぎていないか。テロップで放送法と選挙報道の関係を説明するなど、視聴者の理解をサポートする工夫があってもよかったと思う。
- * 右派と左派についてのプレゼンテーションはすごく熱がこもっていて印象的だったが、政策の内容や政党や政治家の立場はもはや「右と左」「保守とリベラル」というラベリングで単純に分類できるものではないのではないかな。一つ一つの課題、政策、立場を分解して、もう少し多角的、多軸的な視点で考えるべきではないかと思った。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

- *今回は争点に関する特集を増やした結果、力を入れている政党のボリュームが大きくなる一方で、そうでない政党についてはほとんど言及しないということがあった。
- *投票の直前に特定の政党を大きく取り上げた場合、肯定的であれ批判的であれ取り上げる事自体が選挙で有効に働くことが多いので非常に悩ましい。
- *放送法については一般の視聴者の方にわかりやすく伝えるという配慮に欠けていたと思う。
- *選挙報道の質的公平性について、引き続きどのような工夫ができるか考えて取り組んでいきたい。

以上